

平成 24 年 11 月

旧交を温めるための濁酒
銀杏と書いて葉と実を読みわける
マンションになじまず冬支度でふ季語は
里山の火のないところにけむり茸
紅葉せず且つ散りもせず冬に入る
漁火を滲ませてゐる別れかな
俳人に句を詠ますべく時雨けり
出不精の遅ればせなる初紅葉
蒸かし芋手に夜更かしの秋深し
身に入むや地口をおじんギャグなんて